

幼稚園に對する予の希望

東京市麹町小學校長
東京市保育研究會幹事

土 川 五 郎

世の中が益々繁雜になり愈々多忙になるにつれて、家庭教育には其缺陷が段々大きくなり、幼児の教育は極めて不十分になつて行くのは當然の理であります、茲に於て家庭教育の缺陷を補ふべき任務を持つて居る幼稚園は其必要を痛切に感ずべき筈であります。

今教育社會は幼稚園教育をどれ位の程度に於て必要を感じて居るのでせうか、若し小學校が入學前の家庭教育を基礎として教育を初める事とするならば、家庭教育の缺陷を補ふて、身體の發育、感覺の練習、精神の正しき誘導を行ふ所の幼稚園教育は、小學校の最尊重すべき大切なる基礎教育と認めねばならぬ筈であります、序に最も怪しむべき事が偶々ある、それは教育者が幼稚園の不必要を稱へる事てあります。しかしその論據

は極めて薄弱である、甚だしきは保育の實際を全く知らずして大膽に之を否認せられるのがあるやうで御座います。どうか教育社會が今少し幼稚園を重要視するやうになつて貰ひたいものと思ひます。國民教育が大切である以上は、その基礎となるべき幼児教育は決して輕視し得べきものではありません。教育社會のみならず一般社會からも時運に伴ふて其必要を感じるやうになり、學校の側からは其教育の實際と理論の上から其必要を認めて貰ひたいと思ひます。

小學校の先生は幼稚園を経たものはどうも我儘で困ると云ふて共同生活になれ活動性のあるものに我儘の一撃を喰はせますが、私はこんな事を云はれる先生の教育法が果して其當を得て居るか否かを疑ふものであります。

私の學校では多年の經驗から考へて、小學校の初學年では幼稚園教育を受けたものは可成他の兒童を誘導すべき位置に立たしめて之を活用する事にして居ります。これはますます其長所を發揮せしめる所以で、六ヶ年を通じて、幼稚園教育を受けたものは概して優良の成績を占めて居ります。其優良なる原因の中には家庭のよい事も含んで居りませうが家庭教育の缺陷を補ふ幼稚園教育も與つて大に力があるのであらうと思はれます。彼の大阪の如き上中下流に通じて普及したる幼稚園のある所の調査で見ても、小學校に於て現はれたる功果は明かに之を見る事が出來ます。

次に幼稚園の側から少し不平を申して見たいのでありますが、今日幼稚園教育は數に於て振はなればかりでなく其内容の進歩の極めて遅々たるは何故でありませう、私は次のやうな原因によるのではなからうかと思ひます。

一、一園に於ける保母數の少き事

二、幼稚園數の少き事。

保母數が多ければ研究も盛になり園數が多ければ研究の結果の交換も出來るまた競争も行はれる、かうなれば有力なる保母が生存して、所謂自然淘汰が行はれて活氣を添へて、來るわけである。保母數も園數も多ければ著書も澤山に出版せられる、保育の研究を主としたる雜誌も出來て來る、眞に日本の兒童を研究し保育の方法を研究する人も出るのでありますが、保母數も幼稚園數も少い現狀は全く其反對の位置にあるのであります。

私の希望に堪へないのは、もつと一般社會が幼稚園の必要を認めて町村設なり私設なりでもつと多數の幼稚園の設けられる事と、同時に保育料の低減を計つて幼稚園教育普及の道を講じたいと云ふ事であります。そして保母は修養を怠らぬやうにしてその學力を養ひ、保育の方法に十分の研究を積んで貰ひたい事であります。現今の如きフレールベルの見物やモンテッソリーの主義や、一般に

行はれて居る手工や唱歌に甘んじてしまはずに、
一歩々々と古き習慣から脱却して新生面を開いて

貰ひたい事であります。(文責記者)

幼稚園と家庭との聯絡の方法

大阪市三津幼稚園長 小 山 秀

幼稚園在園兒と云ひましても時間に於て少くも
一日の十分の八は家庭に居るのでありますから、
かりに如何に完全な保育をしたとしても家庭で其
心になつてくれなければ其効力を失ふと云ふ事は
論を待たぬのであります。さうでありますからこ
の連絡の手段をどうとればよいかと云ふ事になり
ますと無論各土地の狀況、習慣、其他種々の事柄
の爲に多少相違は免れぬ事でありますが要するに
彼我の意志に於て隔心する所なく該幼兒に對して
の凡ての歩調が相一致する事が出来ましたなら
ば、よいのではありますまいか。

そこで先づ第一に考へなければならんのは何か

の機會を度々造つて其家人と接する度をなるべく
多くする事が最も益ある事と思ふのであります。

思いついた例を舉げて見ますと

一、入園前の取調べ。

入園前に於きまして其母又は親しく養育した
ものをお召して該兒に關する左の事項を可成
委しく聞きとり保育の參考とするのでありま
す

イ、生後より入園時に至る心身の有様。

ロ、家庭より見たる個性。

ハ、家庭のなりたち及宗教。

ニ、雇人の幼兒に及ぼせる影響。